

第 65 回リンドウ・ノーベル賞受賞者会議 参加報告書 兼 アンケート

所属機関・部局・職名:名古屋大学大学院 理学研究科物質理学専攻(化学系) 博士課程後期3年

氏名:中西 勇介 _____

1. ノーベル賞受賞者の講演を聴いて、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。[全体的な印象と併せて、特に印象に残ったノーベル賞受賞者の具体的な氏名(3名程度)を挙げ、記載してください。]

今回の会議で、ノーベル賞学者が皆、並々ならぬ好奇心や確固たる信念、あるいは幅広い視野をもち、多くの方がいまだ現役で研究を続けられていることがわかり、大きな刺激になった。例えば、ノックアウトマウスを開発した **Oliver Smithies** 博士は 89 歳になった今でもご自身の手で研究を行い、第一著者として論文を執筆されている。何十年もの間、知的好奇心を持ち続けるという、研究者としてあるべき姿勢を示してくれた気がする(聴衆からは拍手喝采が巻き起こった)。また準結晶を発見した **Dan Shechtman** 博士は何年もの間その研究成果を認められず、当時所属していた研究所を追われたこともあった。科学者として信頼を失いながらも、自身の電子顕微鏡や結晶解析の技術を信じ、己の信念を貫いた姿勢には深い感銘を受けた。フラーレンの第一発見者である **Harold W. Kroto** 博士は、これまでの研究だけでなく、教育に対する熱意を語ってくれた。戦争やテロで図書館が失われ、子供たちが満足な教育を受けられないことを嘆き、教育は誰にも平等に与えられるべきだと強く訴えられていた。

会議全体を通して学んだのは、ノーベル賞受賞者に共通するのは強い好奇心と確かな信念であるということである。また自身の研究分野に限らず、科学全体、ひいては社会問題や環境問題にも精通しており、人類や地球を見渡す広い(高い)視点を有していることがわかった。今回の会議は3分野合同ということもあり、自分の研究分野(材料科学)とかけ離れた分野の研究者の講演も多かった。生物学や宇宙物理学の講演はフォローできなかった点もあったが、研究のきっかけや苦労話などをわかりやすく、ユーモアたっぷりに話されたので、楽しく聴講することができた。多くの受賞者は自身の経験や思想を若手研究者に伝えるという本会議の主旨を理解しており、その講演はいずれもメッセージ性に溢れ、人を惹きつけるものであった。

ノーベル賞科学者たちの講演は、今後、私の研究人生に間違いなく大きな影響を与えるだろう。私自身、彼らのような大発見を成し遂げられるかはわからないが、もっとマクロな視点でも物事をとらえ、ダイナミックな研究を進めようと思った。そしていつかは、私が今回受けたのと同じ感動を次世代に伝えられるような、そんな科学者になりたい。

2. ノーベル賞受賞者とのディスカッション、インフォーマルな交流(食事、休憩時間やボート・トリップ等での交流)の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。[全体的な印象と併せて、特に印象に残ったノーベル賞受賞者の具体的な氏名(3名程度)を挙げ、記載してください。]

ディスカッションやディナーではノーベル賞受賞者とかなり近い距離で交流し、その経験や思想に直接触れることができた。食事会では研究のことばかりでなく、趣味や恋愛の話など、プライベートな話もたくさん聞くことができ、ノーベル賞受賞者の人間らしい一面を垣間見た気がする。例外なく、ほとんどのノーベル賞受賞者が若手研究者との交流を心から楽しんでいるようだった。

準結晶を発見した **Dan Shechtman** 博士は講演とはうって変わり、少子化・核家族の話がされた。韓国などの先進国で少子化が進んでいる現状を憂い、声を大にして現状の改善を叫ばれていた。若手研究者に積極的に意見を求め、時には降壇して若手と同じ目線で会話していたのが印象的だった。

また、**野依良治**博士は環境問題や社会問題、アカデミック制度の問題など幅広い議題を取り上げ、若手研究者と議論して下さった。日本の科学技術のトップの意見を直に聞ける機会は大変貴重で、博士が非常にマクロな視点でものを考えていらっしゃることを知り、大変な感銘を受けた。そしていつかは自分もそういう視点で物事をとらえられる人間になりたいと強く思った。野依先生のお話は多岐にわたったが、中でも現状の業績優先のポスト制度を取り上げた際に「業績は過去にすぎない」という見解を述べられたことが非常に印象に残っている。

昨年ノーベル平和賞を受賞された **Kailash Satyarthi** 氏はボート・トリップ上で催された若手主催のダンスパーティーにも参加され、積極的に若手との交流を図られていた。無邪気に笑いながらダンスを楽しんでいる様子は氏の重厚な講演からは想像できないものだったが、本当に人間と交流するのが好きな方なのだと思う。

3. 諸外国の参加者とのディスカッション、インフォーマルな交流の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように活かしていきたいか。

諸外国の参加者とのディスカッションでは、フォーマル、インフォーマルに関わらず、英語と自己主張の重要性を痛感した。他国からの参加者は研究の話はもちろん、その他の会話にも積極的でところ構わず議論を戦わせていた。特に南アジア（インドやパキスタン）出身の若手研究者はパーティーの場で自らスピーチを申し出るなど、その積極性には目を見張るものがあった。一方、私は議論がヒートアップしてくると周りの会話についていくのがやっとなりで、とても自分の意見を言える余裕はなかった。今後、日常生活や国際学会では積極的に英語を使った議論の場に参加し、実践的な英語力、あるいは自分の意見を積極的に述べる雰囲気慣れていかなければならない。

また彼らとの会話を通して、日本がいかに多くの国に愛されているか、ということを実感した。食事で同席した他国の参加者からはいつも、日本の食や伝統、サブカルチャー（特に漫画やアニメ）について矢継ぎ早に質問された。日本人として大変誇らしく、うれしく思った。特に、中国や韓国出身の若手研究者の多くが日本の文化を愛し、研究に敬意を払っていることに非常に感銘を受けた。

4. 日本からの参加者とのディスカッション、インフォーマルな交流の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように活かしていきたいか。

参加者のほとんどは博士研究員として国内外の研究機関ですでに働いており、皆、知的好奇心の強い方々ばかりだった。専門が違うので詳しい研究内容はフォローできなかったが、それぞれ大きな目標をもって精力的に研究していることがわかり、大きな刺激になった。例えば中瀬さんは異分野の知識・技術を積極的に取り入れた研究を進めており、その視野の広さと行動力には感心させられた。落合さんはイルカの研究を専門としており、自分（物質科学）とはまったく異なる分野の研究内容に驚き・発見の連続であった。進路相談では具体的なアドバイスをいくつもいただき、今後、進路を決める上で大きな助けになるであろう。

また数人の方々とはいつか共同研究をしよう、という約束をした。専門分野が異なるのですぐに、とはいかないが、いつか私が自分の研究室をもつPIになり、よいアイデアが浮かんだら、必ず彼らにオファーしたい。

5. その他に、リンダウ会議への参加を通して得られた研究活動におけるメリット、具体的な研究交流の展望がもてた場合にはその予定等を記載すること。

特になし。

6. リンダウ会議への参加を通して得られた以上の成果を今後どのように日本国内に還元できると思うか。

本会議出席の成果を還元する一つ的手段として人材育成の仕事がある。リンダウ会議に出席して最も強く感じたことの一つに教育の重要性があげられる。多くのノーベル賞受賞者が講演中に彼ら自身の指導教官との出会いや、弟子に恵まれたことに触れ、それに感謝していた。講演者の一人が「科学はつないでいくものだ」と言ったように、科学において人材育成は非常に重要な意味をもつ。現在はまだ学生の身であるが、今後、大学機関や研究機関で人を指導する立場に立った時、研究のことばかりではなく、人材を育てることに力を入れていきたい。

7. 今後、リンダウ会議に参加を希望する者へのアドバイスやメッセージがあれば記載すること。

若い研究者ほど、積極的に参加してほしい。必ずしもすべての人が参加できるわけではないが、運よく会議に参加することができれば、科学者として、国際人として、間違いなくよい経験になる。同世代のハイレベルな研究者との議論では大いに刺激を受けるだろう。世界最高峰の科学者たちとの交流では専門分野、あるいは科学の枠組みを超えた広い視野、深い思想に触れることができる。また、彼らとその偉業を達成するまでに経験した苦労話は若手研究者に感動と勇気を与えてくれる。リンダウ会議で得られた分野を超えた研究者同士のネットワークや、ノーベル賞受賞者から受けた薫陶は、今後、新しい研究に挑戦していく上で必ず役に立つものと確信している。ぜひ多くの方に参加してもらい、私が受けた感動をぜひ味わってほしい。